

令和7年度用

市出資法人

団体自己評価（自己評価シート）

団体名：公益財団法人伊賀市文化都市協会

所管部課名：地域力創造部 文化振興課

団 体 名	公益財団法人伊賀市文化都市協会	[公益法人会計用]
-------	-----------------	-----------

【経営基本情報】

○団体の基本情報

所 在 地	三重県伊賀市西明寺3240番の2				
H P ア ド レ ス	https://www.bunto.com				
電 話 番 号	0595-22-0511	F A X 番 号	0595-22-0512		
代 表 者	理事長 中村 忠明	設 立 年 月 日	平成9年5月19日		
市 所 管 部 等	地域力創造部 文化振興課	市出資額	100,000 千円	市 出 資 割 合	100.00 %
団 体 の 目 的	地域住民の教育・芸術・文化・生涯学習の振興に資するため、主催公演、講座、体験活動等を行うとともに、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する等の事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与することを目的とする。				

○主な事業内容

[事業規模]

(単位:千円)

事 業 名	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度	令 和 7 年 度	備 考
(1) 芸術文化振興	252,105	222,487	226,385	
全事業合計に占める割合	42%	38%	41%	
(2) スポーツ振興	182,259	189,095	213,696	
全事業合計に占める割合	30%	32%	39%	
(3) 地域産業振興	42,094	30,226	30,349	
全事業合計に占める割合	7%	5%	6%	
(4) (1)～(3)以外の事業	127,630	146,077	80,951	
全事業合計に占める割合	21%	25%	15%	
全事業合計	604,088	587,885	551,381	

[事業の概要]

- (1) 地域住民の芸術文化の普及・振興と地域の教育、福祉の増進に資する事業
- (2) スポーツ、野外活動の普及や知識・教養の習得を図り、市民の体力や運動技術の向上、心身のリフレッシュ、自己実現など生涯学習の推進に資する事業
- (3) 産学官連携による環境・食・文化等に関する共同の研究開発、企業の支援及び地域文化力の向上を通じて、地域産業の振興と健全な地域社会づくりに資する事業
- (4) 文化遺産、読書推進事業ほか

○財務概況

(単位:千円)

		令 和 5 年 度	令 和 6 年 度	令 和 7 年 度
正味財産増減計算書	経常収益 (a)	605,947	589,283	556,534
	経常費用 (b)	604,088	587,885	551,381
	当期経常増減額 (c) = (a) - (b)	1,859	1,398	5,153
	当期経常外増減額 (経常外収益 - 経常外費用) (d)	0	0	0
	当期一般正味財産増減額 (e) = (c) + (d)	1,859	1,398	5,153
	当期指定正味財産増減額 (f)	△ 20,673	△ 7,376	△ 7,344
	当期正味財産増減額合計 (g) = (e) + (f)	△ 18,814	△ 5,978	△ 2,191
貸借対照表	資産	518,744	495,302	468,933
	負債 (h)	209,292	192,101	167,996
	指定正味財産 (i)	103,620	96,244	88,901
	一般正味財産 (j)	205,831	206,958	212,036
	正味財産 (k) = (i) + (j)	309,451	303,202	300,937
	負債・正味財産合計 (l) = (h) + (k)	518,743	495,303	468,933

団体名	公益財団法人伊賀市文化都市協会	[公益法人会計用]
-----	-----------------	-----------

○財務に関する主な指標

	指 標	計 算 式	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度	令 和 7 年 度
安 定 性	正味財産比率	正味財産／(負債＋正味財産)	59.65 %	61.22 %	64.17 %
	借入金依存率	借入金／(負債＋正味財産)	0.00 %	0.00 %	0.00 %
	経常比率	経常収益／経常費用	100.31 %	100.24 %	100.93 %
	自己収益比率	自己収益／経常収益	10.95 %	14.10 %	15.06 %
収 益 性	当期経常増減率	当期経常増減額／経常収益	0.31 %	0.24 %	0.93 %
	総資産当期経常増減率	当期経常増減額／(負債＋正味財産)	0.36 %	0.28 %	1.10 %
効 率 性	人件費比率	人件費／経常費用	38.50 %	43.84 %	36.45 %
	管理費比率	管理費／経常費用	4.24 %	7.75 %	6.06 %

○役職員の状況 (※派遣職員は含まない)

	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度	令 和 7 年 度	備 考
常勤役員	兼務1 人	兼務1 人	兼務1 人	R7平均年齢: 57.0 歳
うち市退職者	0 人	0 人	0 人	R7平均年収: - 千円
常勤正規職員	11 人	10 人	7 人	R7平均年齢: 46.0 歳
うち市退職者	0 人	0 人	0 人	R7平均年収: 4,932.2 千円
その他職員	100 人	98 人	92 人	
うち市退職者	8 人	0 人	6 人	

○市からの財政的支援など (単位:千円)

	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度	令 和 7 年 度
委託料	466,348	471,462	433,971
補助金・助成金	19,066	20,654	20,239
負担金	0	0	0
借入金(期中に借り入れた額の合計)	0	0	0
その他市支出金(追加出資額等)	0	0	0
計	485,414	492,116	454,210
借入金残高(期末残高)	0	0	0
債務保証額(期末残高)	0	0	0
損失補償限度額	0	0	0
損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	0	0	0

団 体 名	公益財団法人伊賀市文化都市協会	[公益法人会計用]
-------	-----------------	-----------

○団体の目標達成状況等

●中・長期経営計画の策定の有無

有	☒	計 画 期 間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで	策 定 予 定 時 期	
無	☐				

●中・長期経営計画による目標及びその達成状況

目 標	当協会は、文化芸術の振興を牽引する専門組織として、伊賀市の「ビジョン」、「条例」に基づく、「プラン」の7つの基本方針(注)に沿って、文化ホールを拠点として優れた文化芸術の鑑賞機会の提供、人材の育成、文化芸術活動への支援をはじめ、多様な文化まちづくり事業を実施し、更なる文化芸術の普及、振興に取り組めます。 また、老朽化した施設の改修等に向けて、「伊賀市スポーツ施設再編・整備計画」を推進するよう施設管理者として伊賀市に積極的に進言・アドバイス等を行うとともに、「伊賀市スポーツ推進計画」の推進に向けて、伊賀市スポーツ協会の事務局として伊賀市と連携・協力しながら、スポーツの振興や健康増進活動に取り組んでいきます。 今後は、令和3年度の伊賀市文化会館開館及び当協会設立30周年の節目を契機に、35周年、40周年へと更なる飛躍に向けて、「ココロにぶんと。」をキャッチフレーズに、創作的かつ地域住民の「心に響く」事業、「心を繋ぐ」事業など、多様な事業を展開するとともに、文化芸術を通じた地域の活性化等に取り組む実行組織などへの参画、関係機関・団体との連携、地域や市民との協働をより一層推進しながら、広範な文化的資源や営みとの連携・融合等により、まちの魅力の発信、観光や地域産業の振興、中心市街地の活性化など、地域課題の解決に向けた「文化で創る 文化が繋ぐ まちづくり」の推進に取り組めます。
実 績	すべての人が芸術文化に触れる機会を提供するため、次世代の育成を意識しつつ、文化ホール・文化財施設・ミュージアム等を活用した多様な文化まちづくり事業(指定管理事業)を実施するとともに、市内の小中学校・福祉施設・企業等へのアウトリーチ事業の展開や伊賀地域内の関係機関・団体との連携、地域や市民との協働を一層推進しながら、芸術文化、体験学習、生涯学習等の振興に資するだけでなく、文化振興を手段とした新しい地域の創造に挑戦した。 また、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与した。 当協会の第1期中期経営計画(2022～2026年度)の経営ビジョン「ひと・地域が輝く文化都市」を目指して」の実現に向けて、同計画に掲げる次のミッションとバリューを基軸として、令和7年度は「Take Action～行動を起こす～」をスローガンに事業活動に取り組んだ。

●年次事業計画による達成目標

令和7年度 目標	令和7年度は、当協会が定める第1期中期経営計画(前期5か年間)に掲げる経営ビジョン「ひと・地域が輝く文化都市」を目指して」の実現に向けて、3つのミッション「未来を見据えた事業の推進」、「文化がつながふれあい豊かなまちづくり」、「協働による横断的な地域の活性化」と、2つのバリュー「安心・安全・快適な施設運営」、「持続可能な専門組織の基盤づくり」を基軸に、『「Take Action」～行動を起こす～』をスローガンとして、すべての人が芸術文化に触れる機会の提供を目指し、次世代の育成を意識しつつ、多様な文化まちづくり事業(自主文化事業)を実施するとともに、伊賀地域内の関係機関・団体との連携、地域や市民との協働を一層推進しながら、地域住民の教育、文化芸術、体験学習、生涯学習の振興に資するばかりでなく、文化振興を手段とした地域の創造に取り組む。 また、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与する。
----------	--

令和7年度 実績	すべての人が芸術文化に触れる機会を提供するため、次世代の育成を意識しつつ、文化ホール・文化財施設・ミュージアム等を活用した多様な文化まちづくり事業（指定管理事業）を実施するとともに、市内の小中学校・福祉施設・企業等へのアウトリーチ事業の展開や伊賀地域内の関係機関・団体との連携、地域や市民との協働を一層推進しながら、芸術文化、体験学習、生涯学習等の振興に資するだけでなく、文化振興を手段とした新しい地域の創造に挑戦した。 また、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与した。 当協会の第1期中期経営計画(2022～2026年度)の経営ビジョン「ひと・地域が輝く文化都市を目指して」の実現に向けて、同計画に掲げる次のミッションとバリューを基軸として、令和7年度は「Take Action～行動を起こす～」をスローガンに事業活動に取り組んだ。
令和8年度 目標	当協会が定める第1期中期経営計画(前期5か年間:令和4年度～令和8年度)に掲げる経営ビジョン「ひと・地域が輝く文化都市」を目指して」の実現に向けて、3つのミッションと、2つのバリューを基軸に、令和8年度は『「思いやり」- think and act -』をスローガンとして、すべての人が芸術文化に触れる機会の提供を目指し、次世代の育成を意識しつつ、多様な文化まちづくり事業(自主文化事業)を実施するとともに、伊賀地域内の関係機関・団体との連携、地域や市民との協働を一層推進しながら、地域住民の教育、文化芸術、体験学習、生涯学習の振興に資するばかりでなく、文化振興を手段とした地域の創造に取り組む。また、産学官連携による地域産業創造センターの運営を通じ、環境・食・文化等に関する地域産業の振興に資する事業を行い、創造性豊かで潤いと活力に満ちた地域社会の健全な発展に寄与する。

団 体 名	公益財団法人伊賀市文化都市協会
-------	-----------------

団体自己評価結果

- A(90%～100%):良好な事象や傾向がみられる
 B(60%～89%):やや良好な事象や傾向がみられる
 C(30%～59%):改善を要する
 D(0%～29%):大いに改善を要する

	比 率	評 価
目 的	100 %	A
事 業	100 %	A
経営計画	100 %	A
経営状況	100 %	A

団体自己評価表

1. 目的に対する評価

	比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	団体の目的は現在でも社会的要請があるか				①
2	民間企業等が事業の実施主体となることは不可能か				①
3	市との役割分担を踏まえ、団体で実施するメリットがあるか				①
4	事業内容は目的に対し意義・効果が認められるか				①
5	団体が設定している目標は、目的や行政目的の達成に寄与する指標となっているか				①
6	社会経済状況に応じ経営改善に取り組んでいるか				①
7	市民に対し情報公開・情報提供しているか				①

2. 事業に対する評価

	比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	団体の事業全体について、成果は十分に上がっているか				①
2	事業毎に目標を設定しているか				①
3	目標の達成状況を評価・活用しているか				①
4	顧客ニーズ及び顧客満足度を把握しているか				①
5	顧客からの問い合わせ、意見等への対応は適切か				①
6	内部統制は十分に実施されているか				①
7	危機管理体制は十分に整備されているか				①
8	組織体制は十分に整備されているか				①
9	管理費比率及び人件費比率は適正か				①

3. 経営計画に対する評価

	比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	経営基本方針等を定め、役員・職員に浸透しているか				①
2	中長期経営計画を策定し、運用しているか				①
3	外部環境、経営資源を把握、評価し、中長期経営計画に盛り込んでいるか				①
4	中長期経営計画と実績との差異を分析し、計画を見直しているか				①
5	年次事業計画と実績との差異を分析し、改善しているか				①
6	中長期経営計画、年次事業計画は市の方針を反映したものとなっているか				①
7	計画目標達成のため、人材育成・能力開発を行っているか				①
8	計画の実施にあたり、進捗管理の体制が十分に整備されているか				①

4. 経営状況に対する評価

	比率	100 %	評価	A	回 答 欄
1	収支の状況は健全であるか				①
2	累積欠損金が発生していないか、債務超過ではないか				①
3	財務基盤についての指標は適正か				①
4	収益における市への依存度は適正か				①
5	総資産当期経常増減率は適正か				①
6	開発用不動産等及び有価証券等の含み損益を把握しているか				①
7	債権管理は十分か				①
8	借入金返済は可能か				①
9	基本財産や運用財産を適正に運用しているか				①
10	必要な額の特定資産(引当金)が設定されているか				①

※ 回答 ①＝5点 ②＝3点 ③＝1点 ④＝0点とし各部門ごとに比率を算出しています。

比率＝(合計点)／(総回答数×5点)×100

団 体 名	公益財団法人伊賀市文化都市協会
《団体自己評価コメント》	
目 的	社会経済環境が変化する中であっても、文化や芸術は心豊かな地域社会の形成に重要な役割を果たすものであり、当財団は、多様な芸術・文化に接する機会の提供、地域や各種団体等との連携事業、文化芸術活動への支援など公益目的事業を展開し、芸術・文化の普及、振興等を担う専門組織として、十分にその役割を果たしている。
事 業	多様な意見を聴く委員会の開催やアンケート調査等を積極的に実施し、市民ニーズを的確に把握し活用することにより、公益性の高い各種事業を限られた財源・体制で効果的、効率的に実施できるように努めており、地域や他団体等からも評価を得るなど、芸術・文化の普及・振興、地域の文化的遺産の保存・振興、スポーツ等による生涯学習振興、地域産業の振興等に一定の成果を上げている。
経 営 計 画	市が進める「公共施設の最適化計画」については、文化ホールをはじめ各施設の具体的な計画が未だ示されていないが、各施設の管理運営計画のほか、芸術・文化の振興についての活動方針等は、市の総合計画におけるまちづくりの方向性、令和元年度に策定された伊賀市文化振興ビジョンならびに伊賀市文化振興条例、及び財団の設立目的を踏まえ、当財団として年次ごとに運営方針、事業計画を策定し、芸術・文化の振興等に全力で取り組んできたが、令和3年5月に策定された伊賀市文化振興プラン(前期実行計画)等も踏まえ、令和4年度から5年間の中期経営計画を令和3年度に作成し令和4年度から同計画に基づき事業を実施している。
経 営 状 況	公益認定法人として、関係法令を遵守することで財務に関する基準を満たすとともに、財務会計上、健全な経営を維持することができている。
総 括 コ メ ン ト	芸術・文化の普及、振興を推進することを目的に設立された当財団の役割は、今後においても変わることなく、心豊かな活力ある地域社会の形成にとって極めて重要な意義を持ち続けるものであると考えている。

【市の審査及び評価結果】

空白：団体自己評価結果と概ね同じ評価

＋：団体自己評価結果に比べて高く評価（良好な点が認められる）

－：団体自己評価結果に比べて低く評価（課題が認められる）

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令 和 7 年 度 コ メ ン ト
目 的	団体自己評価	A	A	A	市民ニーズや、社会経済状況の変化に対応し、経済性や効率性との両立を図りつつ公益目的を果たす努力を続けている。行政や民間企業、他の非営利団体等が担えない役割を果たしている。
	市の評価				
事 業	団体自己評価	A	A	A	限られた人的・物的資源を活用し最大効果を上げるべく努めている。単なる成果追求ではなく、公益性を重視し、多様なニーズに対応した事業を効率的に展開できるよう努めている。
	市の評価				
経 営 計 画	団体自己評価	A	A	A	令和4年度から令和8年度までの期間を対象に策定した中期経営計画に基づき経営を行っている。
	市の評価				
経 営 状 況	団体自己評価	A	A	A	公益認定法人として収支相償など財務3基準を満たしつつ、経費節減、民間補助金の確保等自主財源の確保に努め、健全経営、着実な経営努力を続けている。
	市の評価				

《市の総括コメント》

指定管理施設の適正な管理運営や施設を拠点とし、伊賀市文化振興条例及び伊賀市文化振興ビジョンにおける文化芸術振興の中核団体として、文化芸術を次世代につなぐ育成プログラムを新たに設けるなど数々の事業を展開し、本市の教育、芸術、文化、生涯学習、地域産業の振興等に寄与し、また市民との協働や市内の関係機関・団体との連携をますます深めている。
すべての人が芸術文化に触れられる機会を提供したいという考えを実現できるように、今後も各年齢層の人たちを魅了するあらゆる事業をこれから継続してほしい。